教育研究業績

2026年 9月 1日

氏名　　勝　成仁

研究分野	学位
日本語教育	修士（教育学）

研究のキーワード

日本語教育史、日本語教授法

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例 （教育上の業績） ・各機関での担当科目		
1. 東京早稲田外国語学校	2019年10月～ 2022年6月 2025年1月～ 2025年3月	主に中国からの留学生が在籍している初級レベルのクラスで、四技能を総合的に教える「日本語」の授業を担当した。留学生が四技能をバランスよく学べるようにするための工夫を凝らしながら授業を行った。
2. アメリカカナダ・大学連合日本研究センター	2022年6月～ 2022年8月 2025年6月～ 2025年8月	同センターのサマーコースを受講した北米圏の大学・大学院に所属する初中級レベルの日本語学習者を対象に、主に読解力の向上を目的とした「日本語」の授業を担当した。特に、学生が日本語で論文を読む上での基礎的な力を身につけるための授業を行った。
3. アザディ名称世界言語大学	2022年12月～ 2024年12月	同大学の日本語専攻に所属する1年生のクラスで「日本語演習」「日本語音声学」の授業を担当した。また、4年生のクラスの「日本語教授法（講義）」の授業も担当した。この中で「日本語音声学」では、『いろどり生活の日本語』を使用し、実際の生活場面で使われる日本語の表現を学ぶための授業を展開した。
4. 横浜国立大学	2025年4月～ 2025年8月	初級後半レベルの日本語学習者を対象に、四技能を総合的に教える「総合日本語」の授業と、多読を主とした「読む・話す」の授業を担当した。
5.東京国際大学	2025年9月～ 2026年8月	英語学位プログラムに在籍する留学生を対象に「初級」（総合日本語）の授業を担当した。『まるごと』を使用し、日本の生活場面で必要となる日本語の表現を学ぶための授業を展開した。
・トルクメニスタンでの日本語教師研修 アザディ名称世界言語大学・トルクメニスタン国民教育大学	2023年1月～ 2024年6月	両大学にて、国際交流基金からトルクメニスタンに派遣されている日本語上級専門家とともに、トルクメニスタンの高等教育機関や中等教育機関に所属する日本語教師を対象とした日本語教師研修を実施した。2023年1月、3～6月、2024年1月、4月、6月に、約1週間～2週間の研修を計5回行った。主に「日本語教授法」を担当し、日本語教師の日本語教授力の向上に努めた。
2　作成した教科書，教材		

Ýapon dili 9 -Umumy orta bilim berýän mekdepleriň IX synpy üçin okuw kitaby (birinji daşary ýurt dili)- にほんご 9 －中等教育機関9年生用教科書 (第一外国語用)－	2025年7月	日本語を第一外国語として教えているトルクメニスタンの「アシガバット140番学校」の9年生用教科書を作成した。1章に2課ずつ(1課6ページ)、全8章で構成されている。当地教育省の要請を受け、制作。 (担当部分) 各章の1課の執筆を担当した。 (共著者) H.Ito：各章の2課の執筆を担当した。 A.Taganowa：トルクメン語が必要な箇所の執筆と校正を担当した。 発行所：トルクメニスタン教育省
Ýapon dili 8 -Umumy orta bilim berýän mekdepleriň VIII synpy üçin okuw kitaby (birinji daşary ýurt dili)- にほんご 8 －中等教育機関8年生用教科書 (第一外国語用)－	2025年9月	日本語を第一外国語として教えているトルクメニスタンの「アシガバット140番学校」の8年生用教科書を作成した。1章に2課ずつ(1課6ページ)、全8章で構成されている。当地教育省の要請を受け、制作。 (担当部分) 全8章を執筆した。 (共著者) G.Sähedowa：練習問題の作成とトルクメン語が必要な箇所の執筆を担当した。 B.Hümmetgulyýewa：校正を担当した。 発行所：トルクメニスタン教育省
３　教育上の能力に関する大学等の評価		

4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許 実用英語技能検定　準１級　合格 日本語教育能力検定試験　合格 高等学校教諭専修免許状（英語）取得 登録日本語教員　登録済	 2017年7月 2019年12月 2020年3月 2026年2月	
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他 公益財団法人横浜学術教育振興財団より「2019年度海外渡航費助成金」を獲得 日本語教育史研究会　運営委員	 2019年7月 2026年9月～現在	 アメリカ・ポートランドでの1週間の調査のため助成金を獲得した。日本語イマージョン教育実施校に所属する教師と生徒の保護者に対してインタビュー調査を行った。 ＊2019年度助成研究等報告書(公益財団法人横浜学術教育振興財団)にて調査内容を報告。pp.141-142. 主に研究会誌の編集を担当。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 日本語イマージョン教育におけるコミュニティ・サポートと日本語アシスタント教師の役割 －ポートランド公立学校の事例を基に－ （学位論文：修士）	単著	2020年3月	横浜国立大学（修士）	1989年にアメリカ・ポートランドで始まった日本語イマージョン教育プログラムの継続要因について、コミュニティのサポートという点から考察した。まず、1980年代、イマージョン教育への期待とオレゴン州内での日本への関心が高まり、保護者がプログラムの設立を強く望んだことからこのプログラムが始まったことが確認できた。そして、保護者を中心としたコミュニティによる児童生徒の確保、資金面のサポート、日本語アシスタント教師の受け入れといった独自の活動が、プログラム継続の大きな要因になっていることを示した。

トルクメニスタンにおける日本語教育の展開 －日本語学習者数の急増とその背景－ （研究ノート）	単著	2026年3月	『日本語教育史研究』Vol.5	トルクメニスタンでは、2015年の安倍晋三元首相の訪問を契機に日本語教育が急速に拡大し、日本語学習者数は2015年度の49名から2024年度には14,844名に達した。その背景には、日本との経済関係強化を目指す同国政府が、日本語教育を重要政策として推進してきたことが挙げられる。本稿では、2016年以降に顕著となった日本語教育の発展状況を概観し、その拡大過程と課題を整理した上で、今後の展望を論じた。
（その他） ・出版物 ポートランド公立学校日本語イマージョン教育誕生の背景と発達の経緯 －アメリカにおける日本語イマージョン教育－	単著	2020年11月	一般財団法人　国際教育文化交流協会（ISECE）	ISECEからアメリカの日本語イマージョン教育実施校に派遣される日本語アシスタント教師用に、イマージョン教育についてのガイドブックを作成した。アメリカにおける日本語イマージョン教育の発展の背景を、1989年にポートランド市内で始まったプログラムを例にまとめた。1980年代、アメリカで日本経済への関心と教科を通して第二言語を教えるイマージョン教育の効果への期待が高まったことで日本語イマージョン教育プログラムが設立されたことなどを示した。(全16頁)
・国内学会発表 (口頭) 日本人大学生と日本語学習者の呼称の選択に影響する諸要因について －決定木分析の結果からの一考察－	単独	2019年4月	待遇コミュニケーション学会2019年度春季大会 （早稲田大学）	日本語の呼称を選択する際、上下関係、性別、親疎などがどのような影響を与えているか、日本人大学生と日本語学習者を対象にアンケート調査を行った。決定木分析から、相手が＜同世代、年下＞＜女性＞＜親しい＞場合、日本人大学生は「呼び捨て」を日本語学習者は「～ちゃん」を使う傾向にあることが分かった。この結果から、日本語学習者が「～ちゃん」を付け加えることで相手への親しみを表している可能性が高いことを示した。
・国内学会発表 (ポスター) ポートランド公立学校日本語イマージョン教育における学び －現役教師とインターン経験者へのアンケート調査から－	単独	2018年12月	第29回第二言語習得研究会全国大会 （鹿児島大学）	ポートランドでの日本語イマージョン教育の現状と課題について、現役教師とインターン経験者（日本語アシスタント教師）へのアンケート調査をまとめた。そこから、教室内では教材不足や児童・生徒のレベル差の問題などがあることや、日本の派遣団体から派遣される日本語アシスタント教師が、様々な問題を抱える主教師を助ける重要な役割を果たしていることを示した。
日本語イマージョン教育プログラムにおける保護者のサポートに関する一考察 －ポートランド公立学校の例を基に－	単独	2019年8月	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会　2019年度研究大会 （立命館大学）	ポートランドでの日本語イマージョン教育プログラムをサポートする保護者のコミュニティであるOYANOKAIの関係者にインタビューを行い、プログラムをどのように支えているのかについて調査した。その結果、OYANOKAIが、マグネットスクールと呼ばれる校区外からも児童生徒が通える学校における保護者間のネットワーク形成、日本研修旅行の資金集め、日本語アシスタント教師のホームステイ先の提供などを行い、プログラムを継続する上で重要な存在であることが明らかになった。

日本語イマージョン教育プログラムにおける日本語母語話者アシスタント教師の役割 ーアメリカ・ポートランド公立学校の例を基にー	単独	2020年5月	2020年度日本語教育学会春季大会 （一橋大学）	修士論文の一部から、ポートランドでの日本語イマージョン教育プログラムにおいて、日本語アシスタント教師がどのような役割を果たしているのか、まとめたものである。現役教師、アシスタント教師へインタビュー調査を行い、KHCoderを用いて分析した結果、日本語アシスタント教師は「教師を補助する役割」に加え、児童生徒とより近い関係を築ける点を活かし、児童生徒の「日本語の発話を促す役割」を求められていることを明らかにした。
・国際学会発表 (口頭) What Japanese Language Teachers in Turkmenistan Feel about Japanese Teaching Methods -From the Results of Three Teacher Training Sessions-	単独	2023年10月	International exhibition and scientific conference 2023 <Health care, education and sport in the era of the revival of the new epoch of the powerful state> (International university for the humanities and development)	トルクメニスタンの高等教育機関に勤務する日本語教師対象の教師研修における実践・アンケート調査の結果を報告した。アンケート調査で、教授法に関して日本語教師の意識を探ったところ、多くの教師が、現在「文法訳読法」に近い教え方をしているが、これからは「コミュニカティブ・アプローチ」などを使い、学習者の話す力を伸ばす教え方を取り入れていきたいと考えていることが明らかになった。
Practice of Output Activities in Japanese Language Teacher Training in Turkmenistan	共同	2024年10月	International exhibition and scientific conference 2024 <Health care, education and sport in the era of the revival of the new epoch of the powerful state> (International university for the humanities and development)	トルクメニスタンの高等・中等教育機関向けの日本語教師研修における実践・アンケート結果について報告した。この教師研修では、教室内でのアウトプット活動の実践例として「ドリル練習」や「ロールプレイ」を使った方法を取り上げた。研修中、理論や実践方法を説明するだけでなく、参加者にこれらの活動を実際に実践させた。研修後のアンケート結果から、参加者は、研修で実際にアウトプット活動を実践してみることで、これらの活動の理解度を深めることができ、さらに、自身の授業でも取り入れたいと考えるようになったことが分かった。
ライトニングトークにおける発表（口頭） トルクメニスタンにおける日本語教育の拡大 - 急増する日本語学習者とその課題-	単独	2024年12月	日本語教育史研究会2024年度研究発表会 (オンライン)	トルクメニスタンでは、2015年の安倍元総理大臣の来訪を契機に、日本語教育が急速に拡大した。2016年から国際交流基金の日本語専門家派遣も始まった。国際交流基金によると、日本語学習者数が 2015年の 49 人から 2021年に8865人になるなど、中等教育機関を中心に増えている。一方で、教師不足など様々な課題も抱えている。本発表では、元派遣専門家として、まだ始まったばかりと言えるトルクメニスタンの日本語教育の変遷と現状について示した。